

2014年 日本建築学会北海道支部 技術賞

・北海道生まれの耐震・断熱改修工法

—既存木造住宅の壁内気流止め及び接合部補強・壁耐力向上技術—

鎌田 紀彦 君（一般社団法人新木造住宅技術研究協議会）

植松 武是 君（地方独立行政法人北海道立総合研究機構建築研究本部北方建築総合研究所）

金澤 光明 君（NPO 法人住宅外装テクニカルセンター）

森田 育男 君（同上）

北野 公一 君（同上）

・地場材「札幌軟石」による景観づくりと伝統的技能の継承

辻 明宏 君（辻石材工業株式会社）

村井 均 君（同上）

古館 謙 君（同上）

篠原 雅樹 君（同上）

工藤 好樹 君（同上）

審査経緯

日本建築学会北海道支部技術賞表彰規定 第7条第2項に基づいて、支部技術賞選考委員会を構成する委員の確認をした後、委員会を計2回開催した。初回の技術賞選考委員会では、応募資料から推薦者となっている選考委員を選考に加えないこととして、応募された下記5件（応募順・技術名のみ記載）の内容について協議した。

(a) 放送機能維持に配慮した建物上鉄塔における制振補強技術の開発

(b) 地域シーズを活用した地域住宅の実現と普及

(c) 北海道生まれの耐震・断熱改修工法 —既存木造住宅の壁内気流止め及び接合部補強・壁耐力向上技術—

(d) 地場材「札幌軟石」による景観づくりと伝統的技能の継承

(e) 地場で生産・加工したカラマツとRCを組み合わせたトライハイブリッド構造の開発

以上5件について、選考委員会で技術内容を把握した。特に追加資料の提出は求めず、また選考委員の追加は行わずに選考を進めることとした。その際、表彰技術候補の選考方法は、募集要領の選考基準を「地域性・独自性」、「有効性・新規性」、「継承性・継続性」の3つの観点に分け、それぞれの観点について各委員の3段階評価による採決の後、協議によって決定することと

した。その後、2回目の選考委員会において、協議・採決の結果、上記(c)および(d)の2件を表彰候補技術として選定した。選定理由は以下の通りである。

(c) 北海道生まれの耐震・断熱改修工法 は、「地域性・独自性」、「有効性・新規性」、「継承性・継続性」のすべての観点において優れた技術と評価された。特に、少子高齢・過疎社会に入る北海道内の社会構造の変化を背景に、既存の戸建住宅の耐震および断熱改修工法の開発とその普及は極めて重要な地域課題と言える。北海道内における住宅の長寿命化および安全・安心・快適性が得られるための建築技術の普及によって、今後、北海道外への技術の継承などが期待される。

(d) 地場材「札幌軟石」による景観づくりと伝統的技能の継承 は、「地域性・独自性」、「継承性・継続性」の観点で高い評価を得た。具体的には、北海道の地産材である札幌軟石を活用した長年にわたる景観づくり、および札幌軟石の伝統的な建築技能の継承について高く評価された。今後は、地産材としての札幌軟石の活用、技能継承のための後継者育成などが期待される。

選外の(a)、(b)、(e)についても、「地域性・独自性」、「有効性・新規性」、「継承性・継続性」のそれぞれの観点で高い評価があり、選考委員会で協議を重ねたが、上記(c)および(d)に及ばなかった。技術賞選考委員会より、上記(c)および(d)を表彰技術候補として支部役員会に報告・審議した結果、2014年度日本建築学会北海道支部技術賞として表彰することが決まった。(文責: 斉藤 雅也)